

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2007年 1月25日

I 概要

実践団体・担当者名	京都府宇治市立平盛小学校 (担当者: 系井 登)	
連絡先	電話 0774-39-9140	
プランタイトル	『演劇で防災教育～こんな時、どうする?～』	
目的	「こんな時、どうする?」という具体的な場面を取り入れた演劇を使って、楽しく学べる防災教育の普及を図る	
プランの概略	<p>小学校現場で必要不可欠である防災教育だが、プリント学習や避難訓練を定期的にも実施するも、なかなか真剣に取り組めない児童が多いというのが、現状である。</p> <p>また、地域には、様々な防災設備があるのに、その存在も知らない保護者も多い。そこで、実際に災害があった場合、どのような行動が必要なのかということを知り、児童、保護者、地域の方々で共通して知っておくことは必要なことだと思う。そこで、「こんな時、どうする?」という様々な場面を取り入れた演劇を使って楽しく学べるようにしていく。</p>	
プランの対象と参加人数	平盛小学校児童、保護者、地域の方 440名	
実施日時	2006年10月23日	
主な実施場所	宇治市立平盛小学校	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①劇団「劇団衛星」
	連携したきっかけ・理由	以前から、学校での演劇鑑賞会などで面識があったため
	連携団体へのアプローチ方法	①以前より面識があった。 ②メール等を使って、アポイントを取った。趣旨を説明したところ、協力いただけることになった。
	連携団体との打合せ回数	5回
	連携団体との役割分担	①ワークショップ内容についての相談 ②脚本化 ③舞台出演

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4名
	外部スタッフの総人数	8名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 水口宏志（宇治市立平盛小学校 校長） 企画 糸井 登（宇治市立平盛小学校 教諭） 渉外 清水ヒトミ（宇治市立平盛小学校 教頭） 制作 紙本明子（劇団衛星） 糸井 登（宇治市立平盛小学校 教諭）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年 10月 ～ 2006年 1月
	立案時間	およそ 10時間
	上記のうち打合せ回数	2回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○子ども達が、楽しく防災について考えることのできる演劇にしたい。 ○保護者の方、地域の方にも来ていただき、共に防災について学ぶ機会にしたい。	
プラン立案で 苦労した点	○学校と劇団の方の日程調整 ○防災教育の内容をどのように演劇に組み入れていくか。	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4名
	外部スタッフの総人数	8名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 水口宏志（宇治市立平盛小学校 校長） 企画 糸井 登（宇治市立平盛小学校 教諭） 渉外 清水ヒトミ（宇治市立平盛小学校 教頭） 制作 紙本明子（劇団衛星） 糸井 登（宇治市立平盛小学校 教諭）

準備に要した日数・時間	準備期間	2006年 1月 ~ 2006年 11月
	準備総時間	およそ30時間
	上記の内打合せ回数	5回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	本校（宇治市立平盛小学校）
	どのように働きかけたか	
	結果	
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	平盛小学校自治会
	どのように働きかけたか	学校便りをお渡しし、参加をよびかけた。
	結果	数人の方に観劇いただくことができた。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	宇治市立平盛小学校PTA
	どのように働きかけたか	学校だよりや学年だより等をもとに、各担任を通じて連絡をしていた。
	結果	かなりの数の保護者の方に観劇していただいた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	機材 音響設備 照明設備
	入手先・入手方法	機材 音響設備は、学校のものを使用 照明設備は、劇団に用意していただいた
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	よりよい環境で演劇を実施するために用意した
参加者の募集	募集方法	授業時間を使用したため、自動的に児童は全員参加 保護者、地域の方は、学年だよりにて演劇を紹介
	募集期間	2006年 9月 ~ 10月
	参加予想人数	450名
	実際の参加人数	440名
	募集方法の成功点	授業時間を使った演劇鑑賞会として実施したので、全校児童の参加が可能となった。
	募集方法の失敗点	特になし
準備で苦労した点・工夫した点	○ 児童会本部児童も演劇に参加するということで、複数学年の児童の演劇練習時間を確保していくのが難しかった。	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月	○ 連携団体へのコンタクト		
12月	○ 第1回打ち合わせ 「企画書の作成」		
2006 1月	○ 第2回打ち合わせ 「申請書の作成」		
2月			
3月			
4月			
5月		○ 第3回打ち合わせ 「テーマについて」	
6月			
7月		○ 第4回打ち合わせ 「脚本の内容について」	
8月			
9月		○ 劇団員と児童会児童による「ぼうさい探検隊」の実施	「ぼうさい探検隊」の実施
10月		○ 演劇ワークショップ（3回）実施 ○ 第5回打ち合わせ 「脚本について」 ○ マスコミリリース（当日取材依頼）	10/23 演劇で防災教育開催
11月			○ スタッフ反省会
12月			
2007 1月			「ぼうさい甲子園」にて 希望賞受賞 ダイジェ スト版を上演

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル		演劇で防災教育		
実施日		10月23日		
所要時間	10分	35分	25分	15分
達成目標	演劇を見る時の約束を知る	防災を自分事として考える	考えたことを感想に書く	情報を交流し、共有する
生成物			感想文	
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指示、説明 「私語の禁止」「立ち歩きの禁止」「拍手をしっかりとしよう」の3点を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 演劇 体育館にて実施。「平和を守れ！平盛小防災レンジャー」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 書く作業 教室に戻って、各自、演劇を見て思ったことを原稿用紙に書く 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表 原稿用紙に書いたことをもとに発表。思ったことをクラス内で交流、共有する。
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ● マイク 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音響設備 照明設備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原稿用紙 	
場所	体育館	体育館	各教室	各教室

VI実践後

参加者へのアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火事や地震の時、どう対応したらいいのかがよく分かった。 ○ ふざけていたら訓練にならないことがよく分かった 	
成果として得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数日後の避難訓練の中で、学んだことを実際の行動の中で活かすことのできた児童が多くいた。 ○ 地域、保護者、児童で共通した学びを体験することができた。 	
成果物	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演劇の脚本 ○ 演劇のDVD ○ 児童の感想 	
広報方法	広報した先	各新聞社及びテレビ局
	広報の方法	教育委員会経由の報道連絡表を使用
	取材にきたマスコミ	毎日新聞 京都新聞 洛南タイムス
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	各新聞社とも10月24日朝刊に掲載
	成功点	○ 複数の新聞社に取り上げていただけたことで、保護者からの反応も大きなものとなった。
	失敗点	○ 演劇当日の様子は、テレビニュース等でも取り上げて欲しかったのですが、テレビ局からの反応はなかった。
全体の感想と反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演劇で学ぶという方法は、成功だったと言える、ただ、費用の面から、今後、どのように継続していくかが、大きな課題である。 	
今後の予定	来年度以降の進め方	○ 来年度も、演劇を取り入れた活動を継続したい。
	是非実施してみたい取り組み	○ いろんな「こんな時」を想定し、脚本集としてまとめたい。
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回、助成いただいたおかげで、まず、最初の一步を踏み出すことができました。来年度以降は、今年度生まれた連携を活かし、次なる一步を踏み出せるように頑張りたいと思います。ご支援、ご協力ありがとうございました。 	